

【NRCLレポート】 花粉症 / 花粉アレルギー調査

Part2: 花粉症 / 花粉アレルギーの症状がある人

2016年3月調査結果

 **日本リサーチセンター**
Member of Gallup International Association

東京都中央区日本橋本町2-7-1
TEL:03-6667-3400 (代) FAX:03-6667-3470
<http://www.nrc.co.jp/>

◆NRCLレポート

日本リサーチセンター（NRC）では、**全国15～79歳男女1,200人を対象に、訪問留置のオムニバス調査（NOS）**を、毎月定期的を実施しております。本レポートは、NOSを利用した自主調査「**花粉症/花粉アレルギー**」についての紹介です。

この調査は、2003年3月に初めて実施し、その後、2010年以降毎年3月に実施している時系列調査です。サンプル数は、エリア・都市規模と性年代構成を日本の人口構成比に合致するよう割付をおこないました。また、対象エリアは日本全国、年代は15歳から79歳までと対象者の幅を広く設定していますので、全体結果は日本人全体の実態や意識を反映しているとお考えください。

調査結果は、「Part1:全体編」（**発表済み**）と「Part2:花粉症/花粉アレルギーの人の調査結果編」（**本篇**）の2つに分けてご紹介します。

◆調査内容/項目

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ①花粉症/花粉アレルギーの有無 | ②花粉症/花粉アレルギーになった時期 |
| ③花粉症/花粉アレルギーの症状がある月 | ④花粉症/花粉アレルギーの症状の程度 |
| ⑤今シーズン病院に行ったか | ⑥花粉症/花粉アレルギーに対して具体的にしている対策 |
| ⑦花粉症/花粉アレルギーの対策はいつ頃から始めたか | ⑧マスクを付けることに抵抗感を感じる程度 |
| ⑨「舌下免疫療法」/認知、治療意向、推奨意向 | ⑩最近3カ月間に花粉対策でとった行動 |
| ⑪最近3カ月間で花粉対策用に購入した商品 | ⑫マスクを付けることについて |

◆主な結果は以下の通りです。

①花粉症/花粉アレルギーの有無（全数ベースの結果）

- 「花粉症/花粉アレルギー」の症状の有無を時系列で見ると、2016年は35%で2011年、2015年と並んでいる。
- 2010年からのこの7年間は、「花粉症/花粉アレルギー」は34～37%で推移しており、大きな変化はない。

※②～⑫は、花粉症/花粉アレルギーの症状がある人ベースの結果

②花粉症/花粉アレルギーになった時期

- 花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、いつから「花粉症/花粉アレルギー」になったかを聞いたところ、2016年は半数が10年以上前から症状があると回答した。2014年からのこの3年間で、傾向に変化はない。

③花粉症/花粉アレルギーの症状がある月

- 症状がある月を複数回答で聞いたところ、2016年は、症状のピークは「3月」で約9割の人が症状を感じており、次いで「4月」が7割強と多い。「2月」～「5月」に症状がある人が4割以上あり、「2月」～「5月」が花粉症の主なシーズンといえる。

④花粉症/花粉アレルギーの症状の程度

- 最近1～2週間での症状の程度を聞いたところ、「鼻水・鼻づまり・くしゃみなどの鼻の症状」が重いと回答した人が最も多く57%に上る。
- 次いで、「目のかゆみ・充血などの目の症状」が重いと回答した人が43%。3番目に多いのが、「口内や喉のかゆみ・せきなどの口の症状」で28%となっており、粘膜のある「鼻」「目」「口」が最も症状の出やすい個所となっていることがわかる。

⑤今シーズン病院に行ったか

- 2016年3月時点での通院状況を聞いたところ、「すでに病院に行った人」は27%、「これから病院に行く人」は16%で、あわせて43%が「病院に行った、または行くつもり」と答えている。

⑥花粉症/花粉アレルギーに対して具体的にしている対策

- としている花粉症対策を聞いたところ、「マスクをする」が71%で断トツの1位。
- 次いで「医者処方された内服薬を服用する」が34%、「市販の外用薬を使う」が30%、「医者処方された外用薬を使う」が24%、「市販の内服薬を服用する」が22%と続く。内服薬の利用は、処方薬＞市販品だが、外用薬は市販品＞処方薬の傾向が見られる。

⑦花粉症/花粉アレルギーの対策はいつ頃から始めたか

- 花粉症対策を取り始めた時期を時系列でみると、例年症状が重いピークの「3月上旬以降」に対策を取り始める人が最も多いが、2016年は「2月の下旬」と「3月上旬以降」が17%でほぼ並んでいる。
- また、2016年から新たに追加した「昨年の12月以前から」に回答した人が11%おり、今年の花粉対策は例年よりも早めに対応した人が多かった。

⑧マスクを付けることに抵抗を感じる程度

- マスクをすることに対する抵抗感を聞いたところ、2016年は「かなり抵抗がある」が9%、「やや抵抗感がある」が22%で、合わせると31%が抵抗感を示している。
- 2010年からの時系列でみると、年々抵抗感は低下しつつあるが、2015年、2016年ではほぼ変化は見られない。

⑨「舌下免疫療法」 / 認知、治療意向、推奨意向

<認知>

※「舌下免疫療法」とは、アレルギーの原因物質（アレルゲン）を含むエキスを舌の下に投与し、体内に吸収させる方法で、この投与を数年に渡って継続的に行うことで症状を軽減させる治療法です。スギ花粉症やダニアレルギーの治療薬は保険適応になります。

- 「舌下免疫療法」について上記の説明をした後、この療法に関する認知を聞いたところ、2016年では「内容まで知っている」は20%、「名前だけ聞いたことがある」は31%で、合わせると51%と、過半数がこの治療法を知っていた。

<治療意向>

- スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、「舌下免疫療法」を受けてみたいと思うか聞いたところ、「治療を受けたことがある/現在治療中である」は1%未満だが、「受けたことはないが、受けてみたいと思う」は27%ある。また、「受けてみたいとは思わないが、興味・関心はある」は46%で、合わせれば、7割以上が意向または関心を持っている。

<推奨意向>

- スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、「舌下免疫療法」を家族や友人に勧めたいと思うか聞いたところ、「ぜひ勧めたいと思う」は3%と少ないが、「まあ勧めたいと思う」と回答した人は38%あり、合わせると41%の人が推奨意向を示している。

⑩最近3カ月間に花粉対策でとった行動

- この3か月くらいの中に、自分や家族が花粉対策のためにどのような行動をしたかを聞いたところ、2016年では、「窓を開けなくなった／換気回数を減らした」が31%、「外に干した洗濯物を取り入れる前に、洗濯物の花粉を払うようになった」が28%と多い。
次いで、「ふとんを外に干すのをやめた」「空気清浄機を利用するようになった」がともに26%で続く。
- 一方、「上記のような花粉対策はしていない」は28%で、花粉症の人がいる世帯の7割以上は、上記のようないずれかの花粉対策を行っていると言える。

⑪最近3カ月間に花粉対策でとった行動

- この3か月くらいの中に、自分や家族が花粉対策用にどのような商品を購入したかを聞いたところ、2016年では、「花粉症による鼻への負担がかかりにくい保湿ティッシュ・ローションティッシュ」が22%と最も多かった。

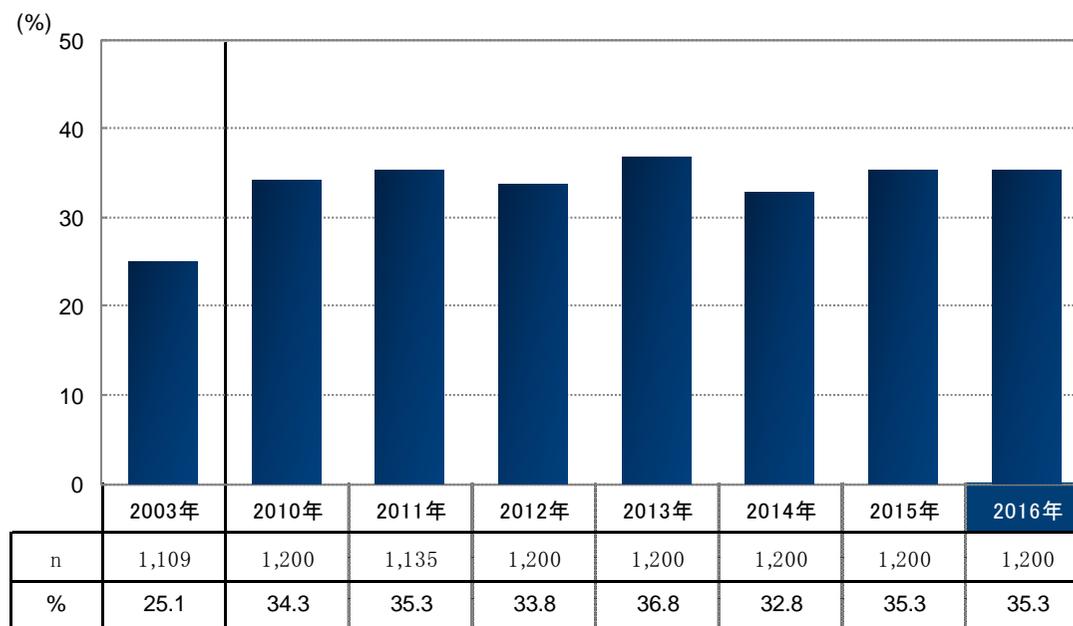
⑫マスクを付けることについて

- マスクの装着で感じることについて、2016年の結果は、
【恥ずかしい・格好悪い】と【不潔に感じる】というネガティブな意見に対しては、「そう思う」は3～4%と少なく、8割近くが「そう思わない」と否定している。
- 【呼吸しにくい】は、「そう思う」が57%で、「そう思わない」の21%を上回る。
- 【マスクをすると安心・落ち着く】は、「そう思わない」が39%で、「そう思う」の22%を上回る。
- 【花粉症予防に効果はない】は、「そう思わない」が54%で、「そう思う」の6%を上回るが、「どちらともいえない」が4割強ある。
- 花粉症/花粉アレルギーの症状がある人はマスクをする頻度が高いが、恥ずかしさや不潔感は否定するものの、花粉予防の効果について「そう思わない」と否定できる人は半数程度にとどまっている。
- 時系列推移をみると、花粉症/花粉アレルギーの症状がある人で【恥ずかしい・格好悪い】を肯定する人は減少傾向がみられ、2010年では14%だったが、2016年では4%まで減少している。

- ◆「花粉症/花粉アレルギー」の症状の有無を時系列でみると、2016年は35%で2011年、2015年と並んでいる。
- ◆2010年からのこの7年間は、「花粉症/花粉アレルギー」は34～37%で推移しており、大きな変化はない。

Q 現在あなたは、次のようなアレルギーをお持ちですか。(複数回答) → 「花粉症/花粉アレルギー」の比率

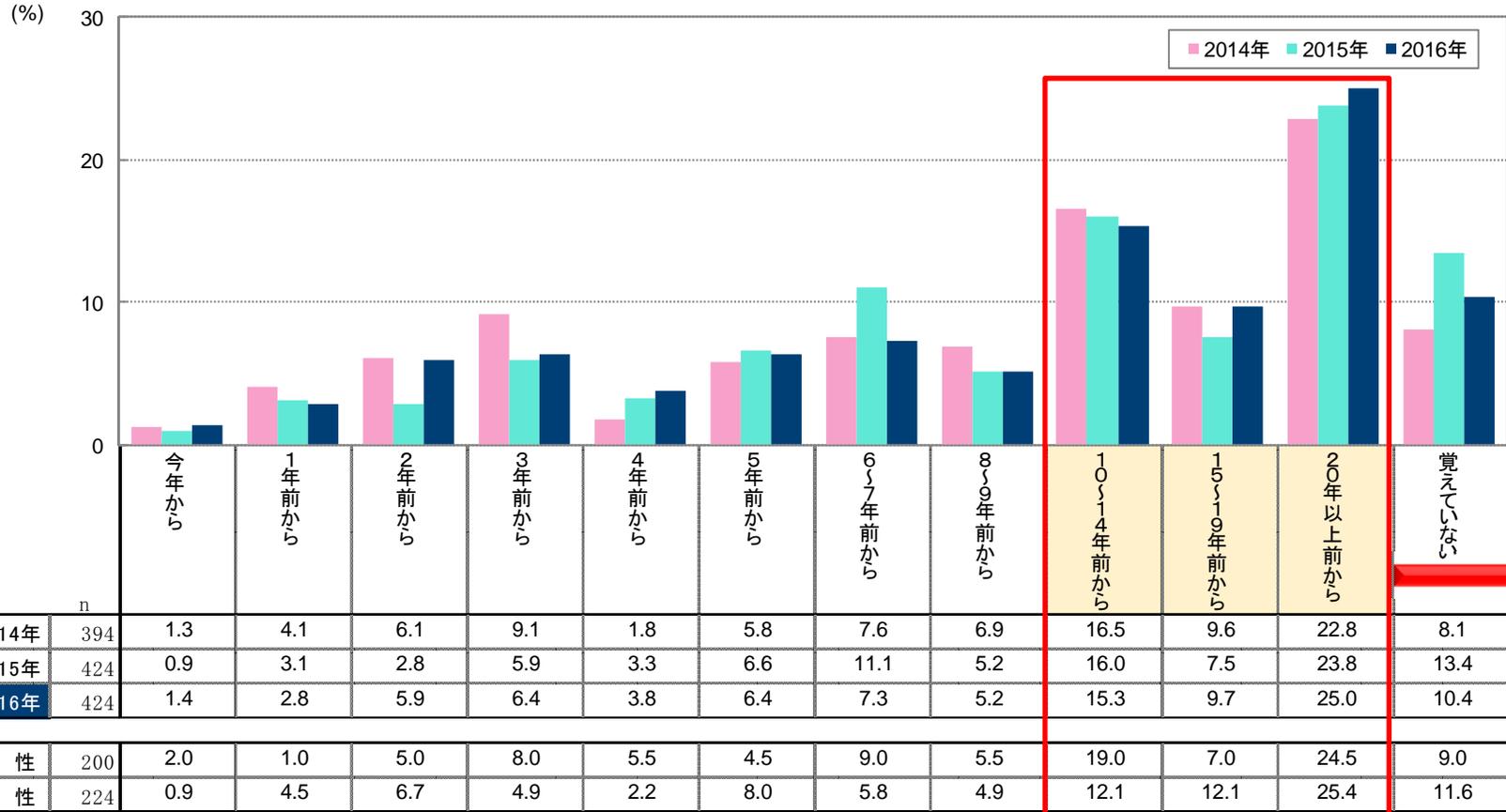
■ 全体 時系列



- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、いつから「花粉症/花粉アレルギー」になったかを聞いたところ、2016年は半数が10年以上前から症状があると回答した。2014年からこの3年間で、傾向に変化はない。
- ◆2016年の結果を男女別でも、同様の傾向である。

Q いつから花粉症/花粉アレルギーになりましたか。(単数回答)

■ 全体 時系列 (花粉症/花粉アレルギーの症状がある人)

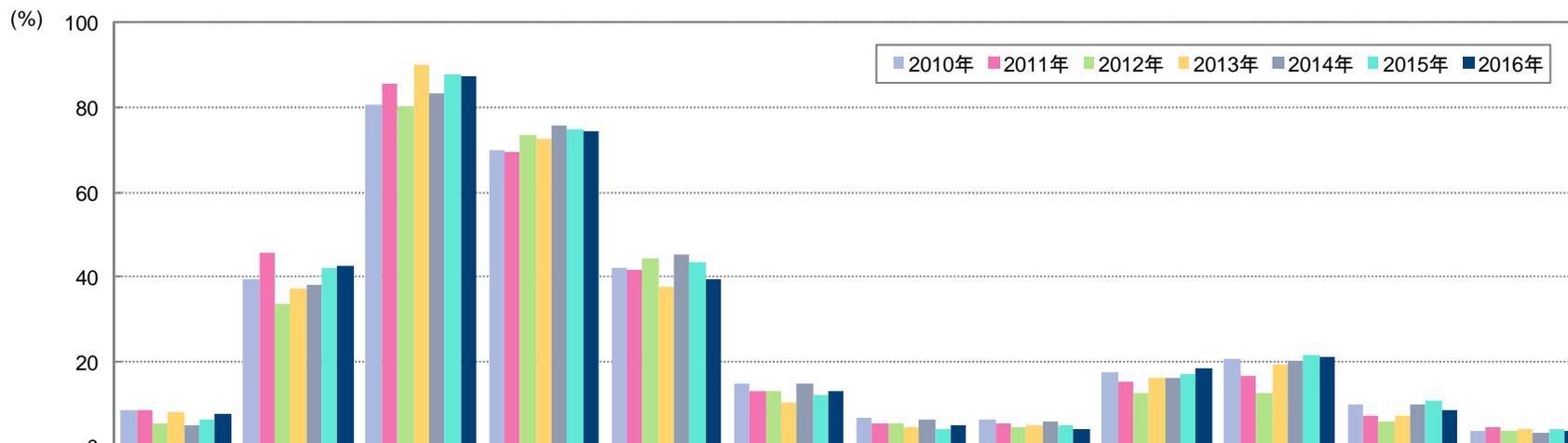


(%)

- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、症状がある月を複数回答で聞いたところ、2016年は、症状のピークは「3月」で約9割の人が症状を感じており、次いで「4月」が7割強と多い。「2月」～「5月」に症状がある人が4割以上あり、「2月」～「5月」が花粉症の主なシーズンといえる。「7月」「8月」になると5%程度と低くなるが、「9月」「10月」には症状を感じる人が1～2割程度まで増加する。
- ◆時系列でも、傾向に大きな違いはない。
- ◆2016年の結果を男女別で見ると、ピークの「3月」に男女差はないが、ピーク前後の「2月」「4月」と秋の「9月」「10月」は女性のほうが多い。

Q あなたの花粉症の症状がある時期をすべてお知らせください。(複数回答)

■ 全体 時系列 (花粉症/花粉アレルギーの症状がある人)



		n	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2010年		412	8.5	39.6	80.8	70.1	42.2	15.0	7.0	6.3	17.7	20.6	10.0	3.9
2011年		401	8.7	45.9	85.5	69.3	41.6	13.0	5.7	5.5	15.2	16.7	7.2	4.7
2012年		405	5.4	33.8	80.2	73.6	44.4	13.3	5.4	4.4	12.8	12.8	6.2	3.7
2013年		442	8.4	37.1	90.0	72.6	37.8	10.6	4.5	5.0	16.3	19.2	7.5	4.1
2014年		394	5.1	38.1	83.5	75.6	45.4	15.0	6.3	5.8	16.2	20.3	9.9	3.3
2015年		424	6.6	42.0	88.0	74.8	43.4	12.3	4.2	5.0	17.2	21.5	10.8	4.0
2016年		424	7.5	42.7	87.5	74.3	39.6	13.0	5.2	4.2	18.4	21.0	8.5	3.8

2016年	男性	200	7.5	40.0	88.0	69.5	38.5	11.5	5.5	4.0	11.5	16.5	6.0	4.0
	女性	224	7.6	45.1	87.1	78.6	40.6	14.3	4.9	4.5	24.6	25.0	10.7	3.6

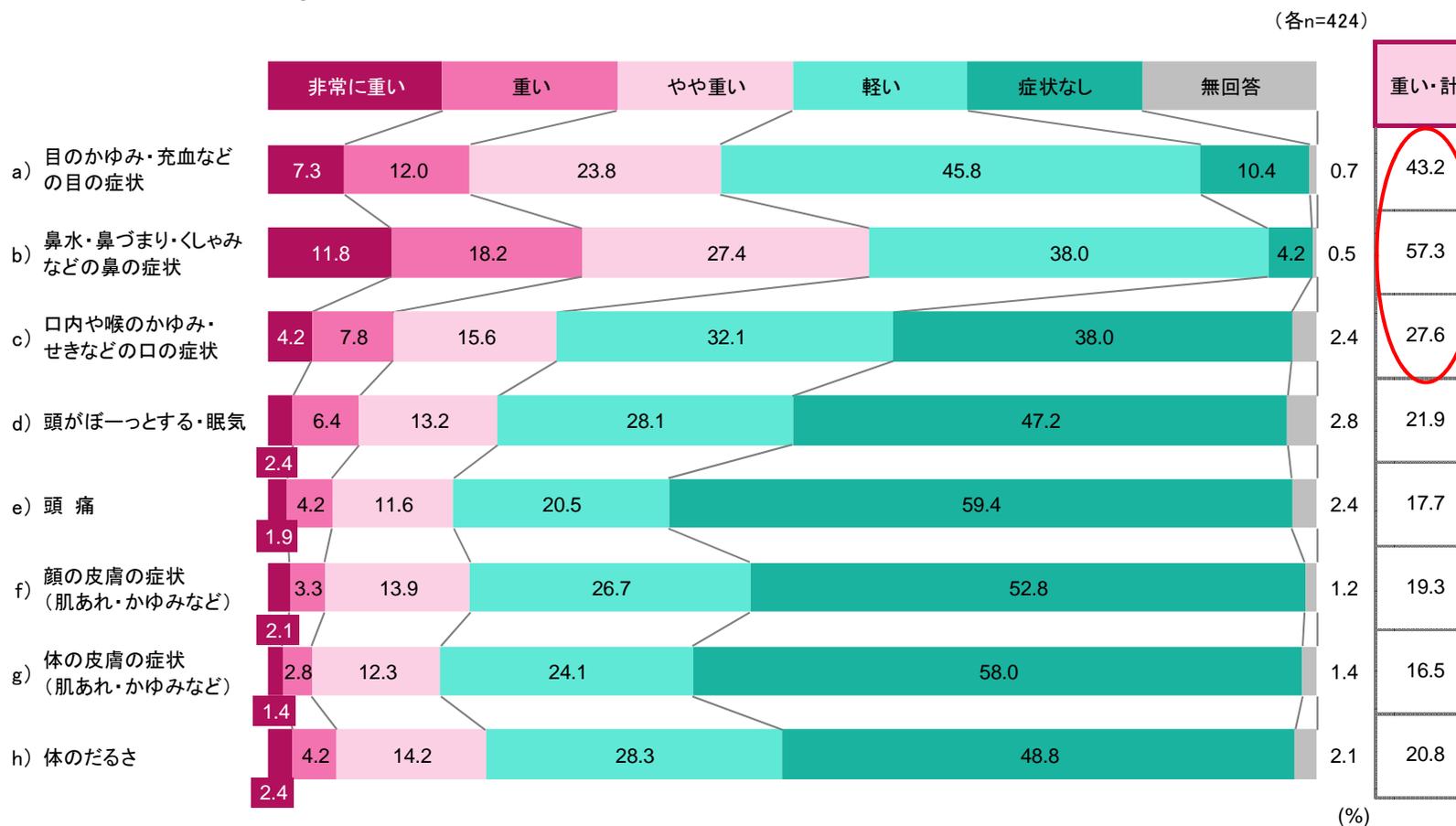
(注) は2016年全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

(%)

- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、最近1～2週間での症状の程度を聞いたところ、「鼻水・鼻づまり・くしゃみなどの鼻の症状」が重いと回答した人が最も多く57%に上る。
- ◆次いで、「目のかゆみ・充血などの目の症状」が重いと回答した人が43%。3番目に多いのが、「口内や喉のかゆみ・せきなどの口の症状」で28%となっており、粘膜のある「鼻」「目」「口」が最も症状の出やすい個所となっていることがわかる。

Q 最近1～2週間でのあなたの花粉症の症状について、それぞれその程度をお知らせください。(各単数回答)

■ 全体 2016年 (花粉症/花粉アレルギーの症状がある人)



※選択肢は、「1.症状なし」「2.軽い」「3.やや重い」「4.重い」「5.非常に重い」の順で提示した

- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状の重さを男女別にみると、全ての症状において女性のほうが症状が重いと回答する人が多い。
- ◆中でも、「頭痛」は男性では12%に対し、女性では23%が重いと答えている。また、「口内や喉のかゆみ・せきなどの口の症状」や「頭がぼーっとする・眠気」も男女差が大きく、前者は男性23%＜女性32%、後者は男性17%＜女性26%である。

■ 性別 2016年（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）

<重い・計>

	全体	男性	女性
n=	424	200	224
a) 目のかゆみ・充血などの目の症状	43.2	41.0	45.1
b) 鼻水・鼻づまり・くしゃみなどの鼻の症状	57.3	53.5	60.7
c) 口内や喉のかゆみ・せきなどの口の症状	27.6	22.5	32.1
d) 頭がぼーっとする・眠気	21.9	17.0	26.3
e) 頭痛	17.7	12.0	22.8
f) 顔の皮膚の症状(肌あれ・かゆみなど)	19.3	14.5	23.7
g) 体の皮膚の症状(肌あれ・かゆみなど)	16.5	14.0	18.8
h) 体のだるさ	20.8	16.5	24.6

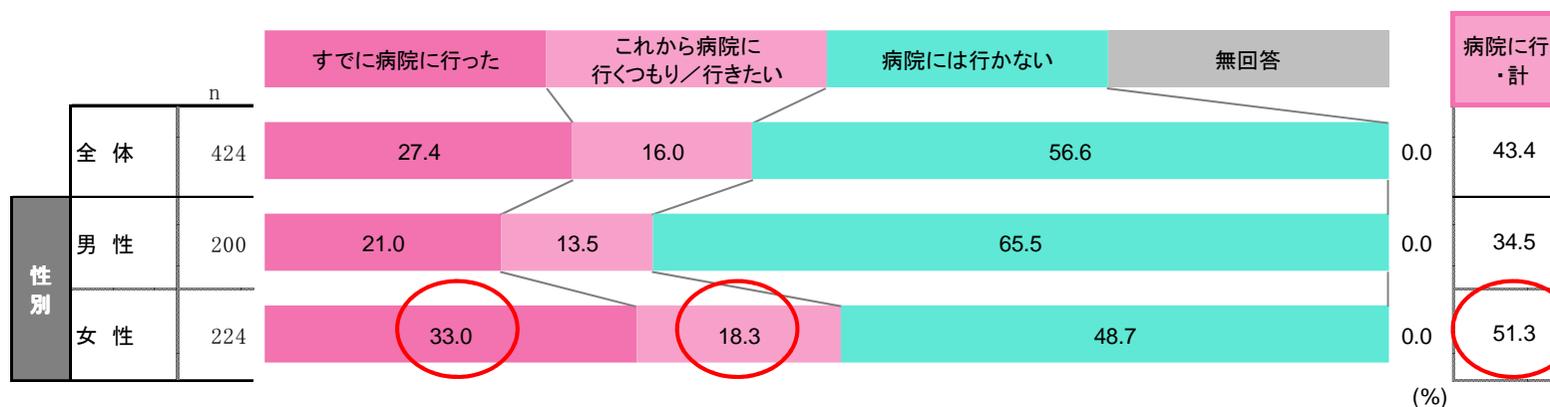
(%)

(注) は全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、2016年3月時点での通院状況を聞いたところ、全体では「すでに病院に行った人」は27%、「これから病院に行く人」は16%で、あわせて43%が「病院に行った、または行くつもり」と答えている。
- ◆男女別にみると、女性では33%がすでに病院に行っており、男性の21%を大きく上回る。また「これから病院に行く」人も女性は18%で、「病院に行くまたは行くつもり」は、男性が35%に対し、女性は51%と多い。

Q 花粉症/花粉アレルギーの症状に対して、今シーズンは病院に行きましたか。(各単数回答)

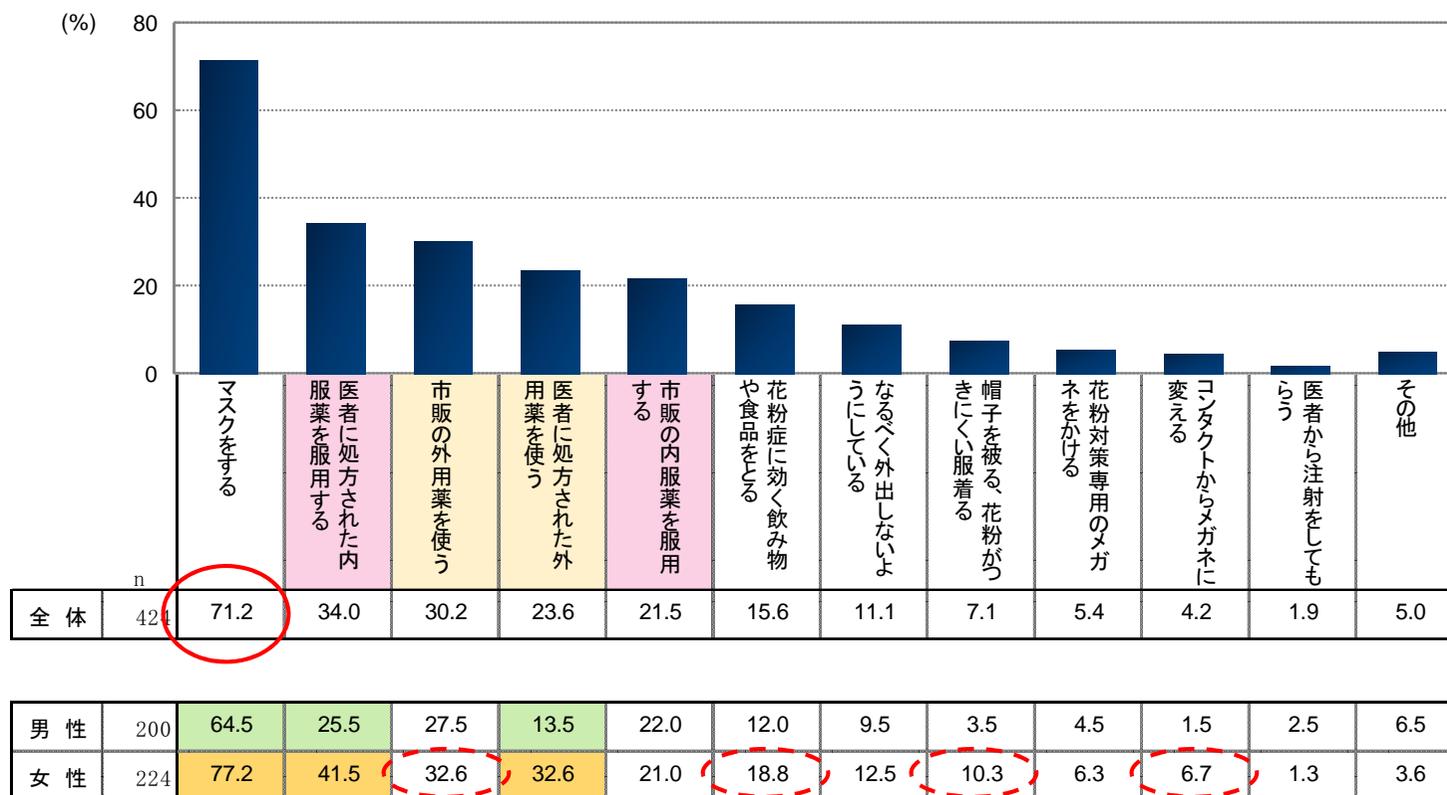
■ 全体・性別 2016年（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）



- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、とっている対策を聞いたところ、「マスクをする」が71%で断トツの1位。
- ◆次いで「医者処方された内服薬を服用する」が34%、「市販の外用薬を使う」が30%、「医者処方された外用薬を使う」が24%、「市販の内服薬を服用する」が22%と続く。内服薬の利用は、処方薬＞市販品だが、外用薬は市販品＞処方薬の傾向が見られる。
- ◆男女別にみると、「マスクをする」「医者処方された内服薬」「医者処方された外用薬を使う」は男性よりも女性のほうが10%以上多い。また、「市販の外用薬を使う」「花粉症に効くと言われている飲み物や食品をとる」「帽子をかぶったり、花粉がつきにくい服を着る」「コンタクトからメガネに変える」も女性のほうが5%程度多い。

Q あなたは花粉症対策として具体的にどのような対策を行っていますか。次の中からあてはまるものをすべてお知らせください。（複数回答）

■ 全体・性別 2016年（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）（多い順に並び替え）

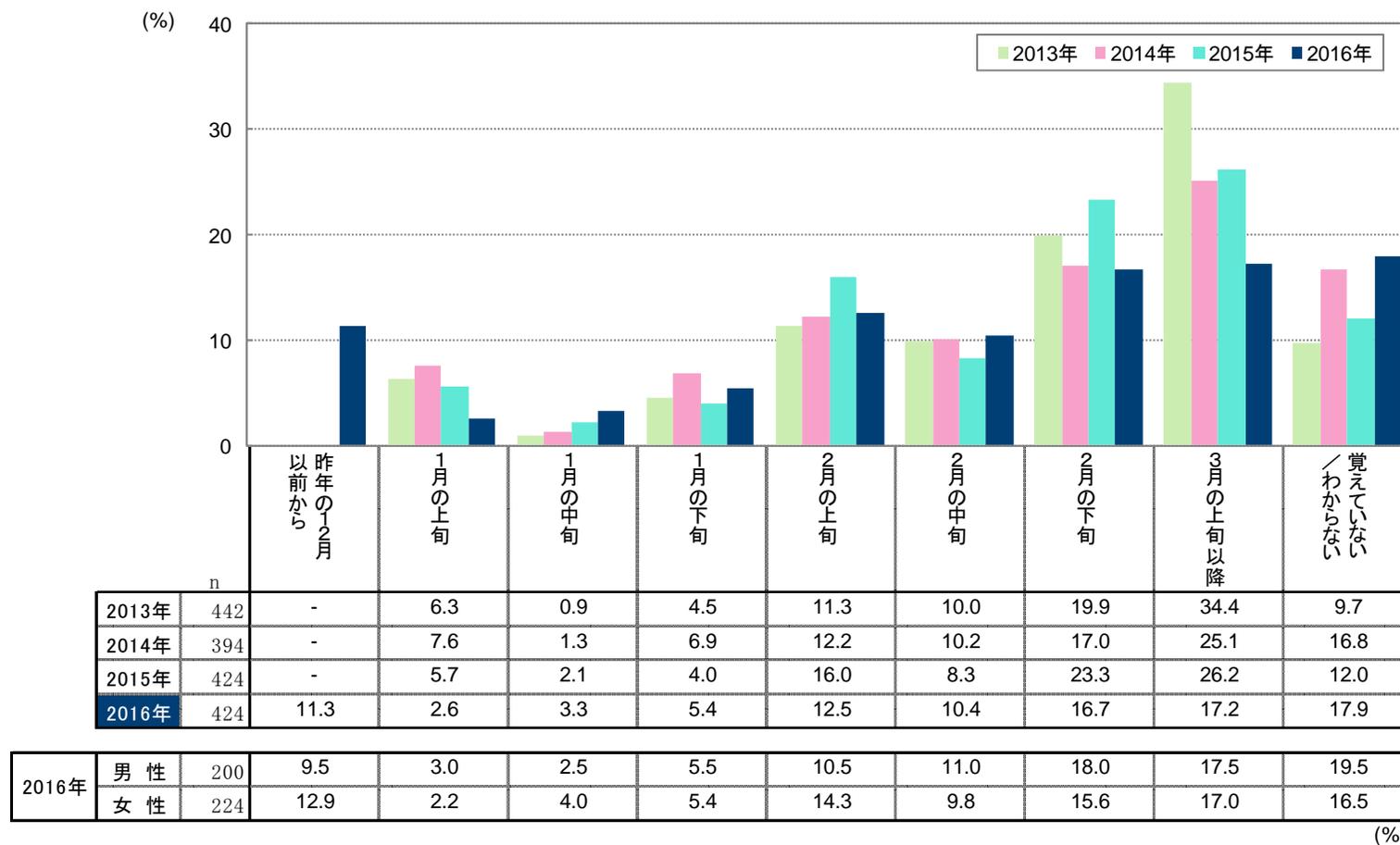


(注) は全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

- ◆花粉症対策を取り始めた時期を時系列で見ると、例年症状が重いピークの「3月上旬以降」に対策を取り始める人が最も多いが、2016年は「2月の下旬」と「3月上旬以降」が17%でほぼ並んでいる。
- ◆また、2016年から新たに追加した「昨年の12月以前から」に回答した人が11%おり、今年の花粉対策は例年よりも早めに対応した人が多かった。

Q 前問でお答えになった対策は、いつ頃から始めましたか。(単数回答)

■ 全体 時系列 (花粉症/花粉アレルギーの症状がある人)

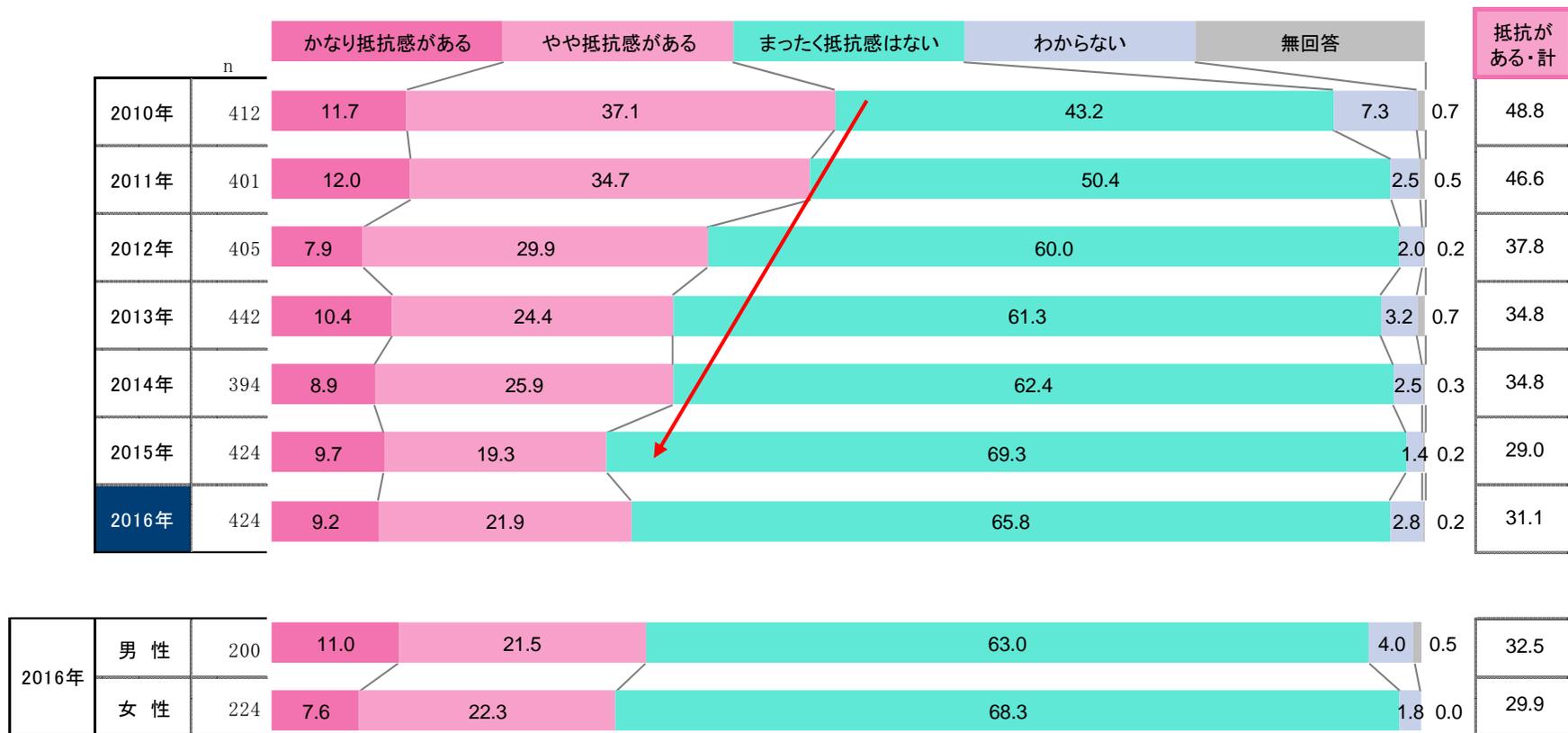


(%)

- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、マスクをすることに対する抵抗感を聞いたところ、2016年全体では「かなり抵抗がある」が9%、「やや抵抗がある」が22%で、合わせると31%が抵抗感を示している。
- ◆時系列でみると、年々抵抗感は低下しつつあるが、2015年、2016年ではほぼ変化は見られない。
- ◆2016年の結果を男女別でみると、抵抗感に大差なし。

Q 花粉症/花粉アレルギー対策の1つとして、マスクをつける方法があります。マスクをつけるのは、人目を引いたり、顔を覆うことに心理的な抵抗感を感じる人もいます。あなたは、マスクをすることに対して抵抗感がありますか。(単数回答)

■ 全体 時系列 (花粉症/花粉アレルギーの症状がある人)



※選択肢は、「1.まったく抵抗感はない」「2.やや抵抗感がある」「3.かなり抵抗感がある」「4.わからない」の順で提示した

(%)

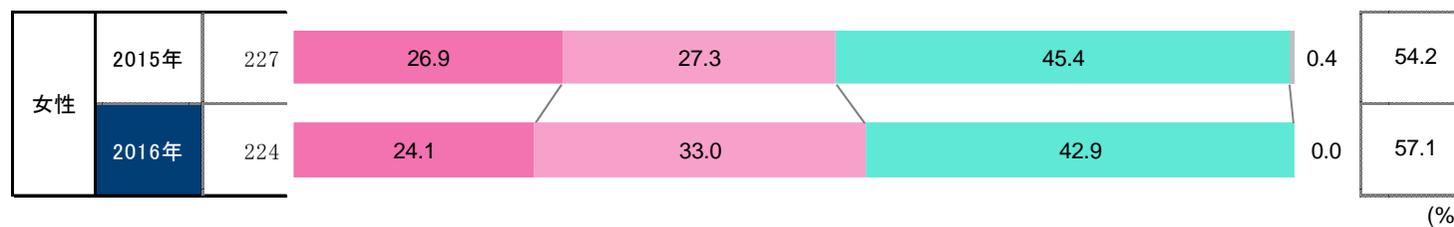
- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、「舌下免疫療法」について簡単に説明した後、この療法に関する認知を聞いたところ、2016年全体では「内容まで知っている」は20%、「名前だけ聞いたことがある」は31%で、合わせると51%と、過半数がこの治療法を知っていた。
- ◆2015年との比較では、認知率に変化は見られない。
- ◆男女別にみると、男性では43%が認知しているのに対し、女性では57%が認知しており、女性の関心の高さが伺える。

Q あなたは、「舌下免疫療法」についてご存知ですか。「舌下免疫療法」とは、アレルギーの原因物質（アレルゲン）を含むエキスを舌の下に投与し、体内に吸収させる方法で、この投与を数年に渡って継続的に行うことで症状を軽減させる治療法です。スギ花粉症やダニアレルギーの治療薬は保険適応になります。（単数回答）

■ 全体 時系列（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）



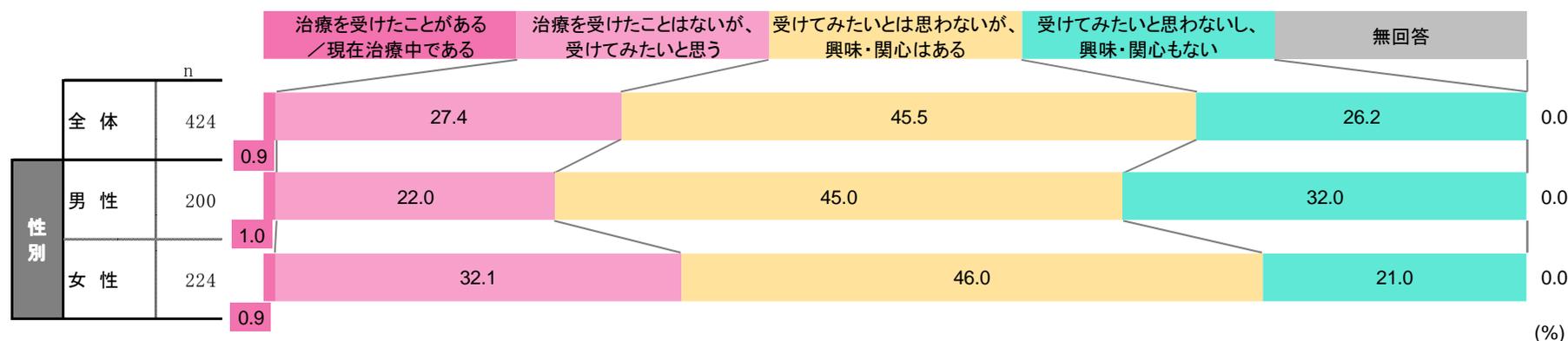
■ 性別 時系列（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）



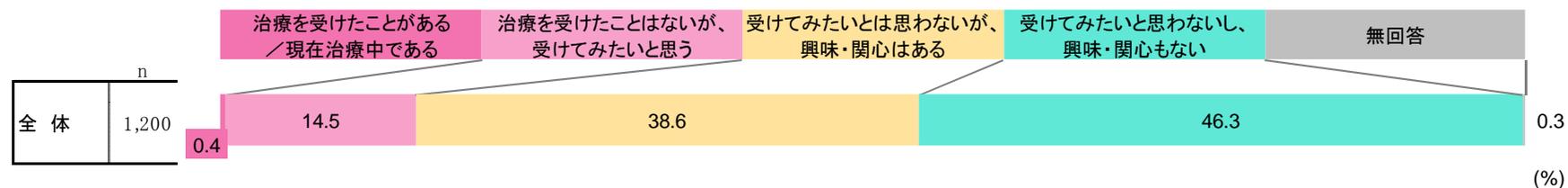
- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、「舌下免疫療法」を受けてみたいと思うか聞いたところ、全体では、「治療を受けたことがある/現在治療中である」は1%未満だが、「受けたことはないが、受けてみたいと思う」は27%ある。また、「受けてみたいとは思わないが、興味・関心はある」は46%で、合わせれば、7割以上が意向または関心を持っている。
- ◆男女別にみると、女性の治療意向が32%と比較的多い。

Q あなたは、スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、この「舌下免疫療法」を受けてみたいと思いますか。（単数回答）

■ 全体・性別 2016年（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）



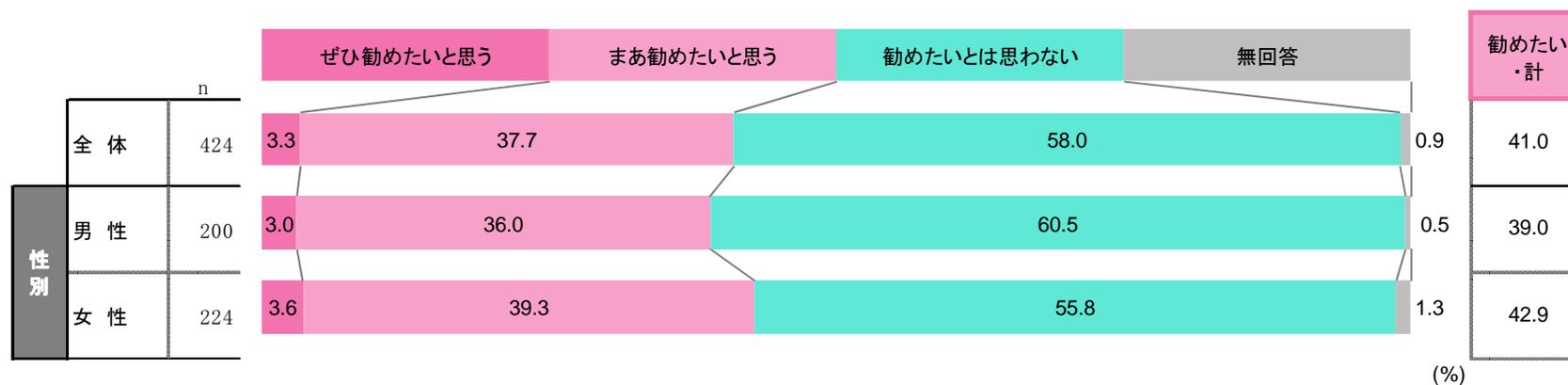
(参考：2016年/全数ベース)



- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、「舌下免疫療法」を家族や友人に勧めたいと思うか聞いたところ、「ぜひ勧めたいと思う」は3%と少ないが、「まあ勧めたいと思う」と回答した人は38%あり、合わせると41%の人が推奨意向を示している。
- ◆男女別では、大きな違いは見られない。

Q あなたは、スギ花粉症やダニアレルギーの治療として、この「舌下免疫療法」を家族や友人の方に勧めたいと思いますか。（単数回答）

■ 全体・性別 2016年（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）



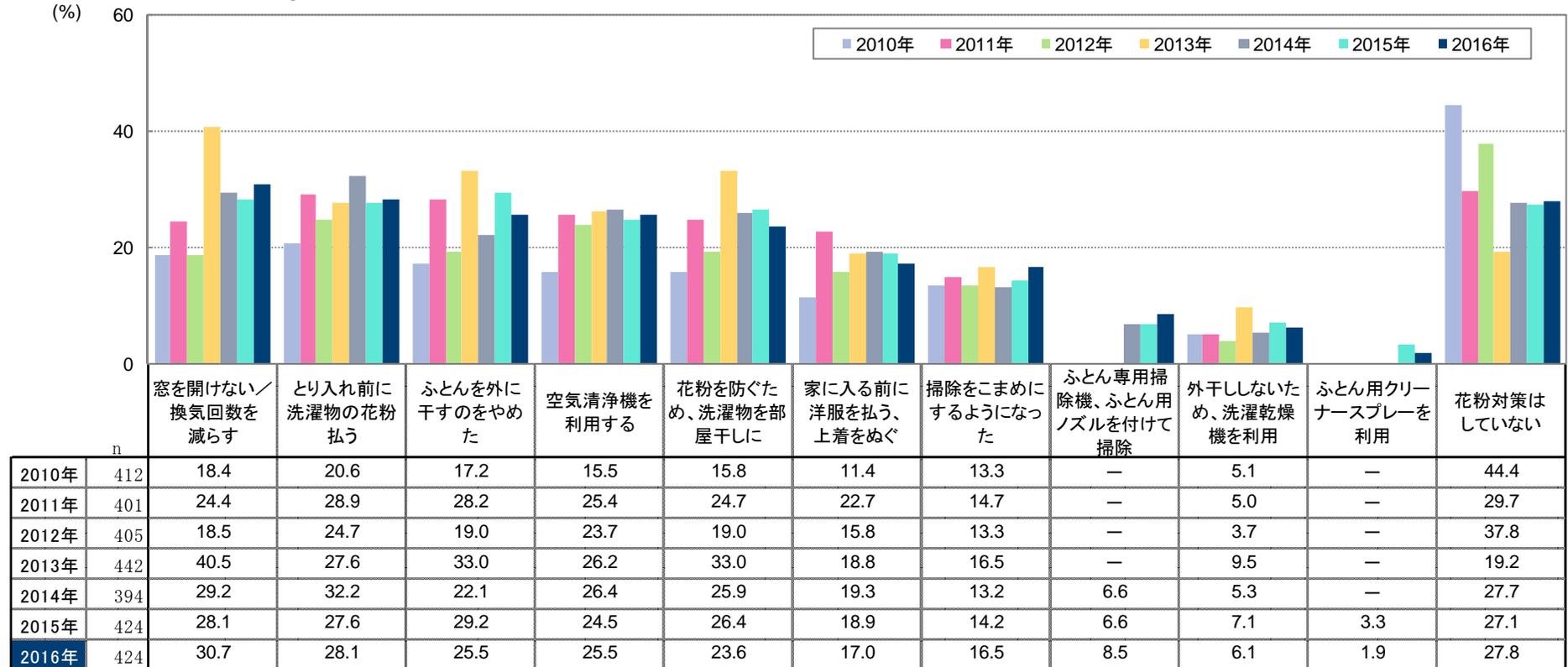
(参考：2016年/全数ベース)



- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、この3か月くらいの中に、自分や家族が花粉対策のためにどのような行動をしたかを聞いたところ、2016年では、「窓を開けなくなった／換気回数を減らした」が31%、「外に干した洗濯物をとり入れる前に、洗濯物の花粉を払うようになった」が28%と多い。次いで、「ふとんを外に干すのをやめた」「空気清浄機を利用するようになった」がともに26%で続く。
- ◆一方、「上記のような花粉対策はしていない」は28%で、花粉症の人がいる世帯の7割以上は、以下のようないずれかの花粉対策を行っていると言える。
- ◆2016年の結果を男女別にみると、全般的に女性のほうが対策をとっており、特に「外に干した洗濯物をとり入れる前に、洗濯物の花粉を払うようになった」「ふとんを外に干すのをやめた」「空気清浄機を利用するようになった」が、男性よりも10%以上多い。

Q この3ヶ月くらいの中に、あなたご自身やご家族が、花粉対策のためにとった行動として、下記の中からあてはまるものをいくつでもお知らせください。（複数回答）

■ 全体 時系列（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）（2016年の多い順に並び替え）



2016年	男性	200	27.0	18.0	15.5	19.5	21.0	13.5	14.5	4.5	6.5	1.5	37.5
	女性	224	33.9	37.1	34.4	30.8	25.9	20.1	18.3	12.1	5.8	2.2	19.2

※「ふとん専用掃除機、ふとん用ノズルを付けて掃除」は2014年から（ふとん用ノズルは今年から追加）、「ふとん用クリーナーをスプレーを利用」は2015年から聴取

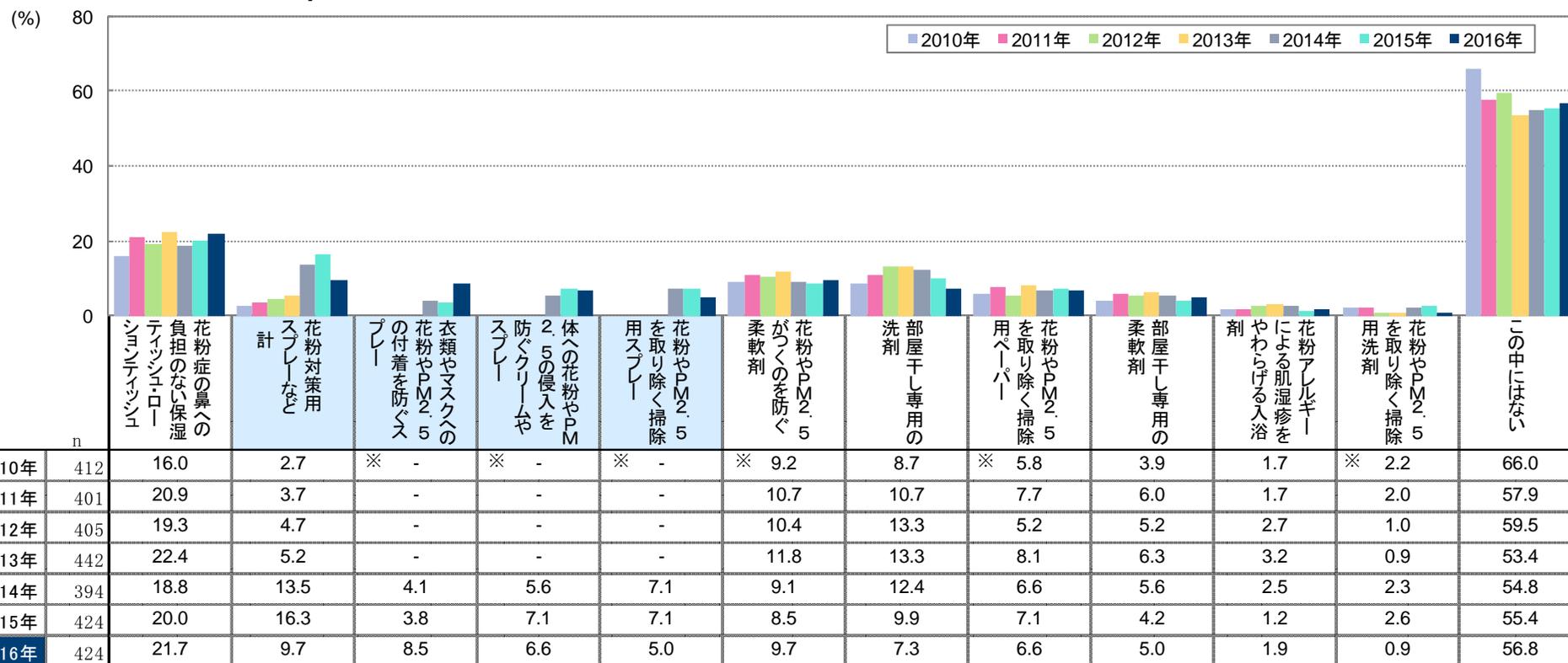
(注) は2016年全体より5ポイント以上高い、 は5ポイント以上低い

(%)

- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、この3か月くらいの間に、自分や家族が花粉対策用にどのような商品を購入したかを聞いたところ、2016年全体では、「花粉症による鼻への負担がかりにくい保湿ティッシュ・ローションティッシュ」が22%と最も多かった。
- ◆2016年の結果を男女別でみると、「保湿ティッシュ・ローションティッシュ」のほかに、「花粉やPM2.5がつくのを防ぐ柔軟剤」が女性で多い。

Q この3ヶ月くらいの間に、あなたご自身やご家族が、花粉対策用に下記の商品をお買いになりましたか。
次の中から（花粉対策を意識してお買いになったものだけ）あてはまるものをいくつでもお知らせください。（複数回答）

■ 全体 時系列（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）（2016年の多い順に並び替え）



2016年	性別	n	保湿ティッシュ・ローションティッシュ	花粉対策用スプレーなど	花粉やPM2.5の付着を防ぐスプレー	衣類やマスクへの花粉やPM2.5を防ぐスプレー	体への花粉やPM2.5の侵入を防ぐクリームやスプレー	花粉やPM2.5を取り除く掃除用スプレー	花粉やPM2.5がつくのを防ぐ柔軟剤	花粉やPM2.5を取り除く掃除用スプレー	部屋干し専用の洗剤	花粉やPM2.5を取り除く掃除用ペーパー	部屋干し専用の柔軟剤	花粉アレルギーによる肌湿疹をやわらげる入浴剤	花粉アレルギー用洗剤	花粉やPM2.5を取り除く掃除用洗剤	この中にはない
2016年	男性	200	15.0	8.9	7.0	7.5	2.5	4.5	5.5	4.5	3.5	1.5	1.5	-	-	-	63.5
2016年	女性	224	27.7	10.4	9.8	5.8	7.1	14.3	8.9	8.5	6.3	2.2	0.4	-	-	-	50.9

※の選択肢では、2016年より「花粉やPM2.5を…」と変更した

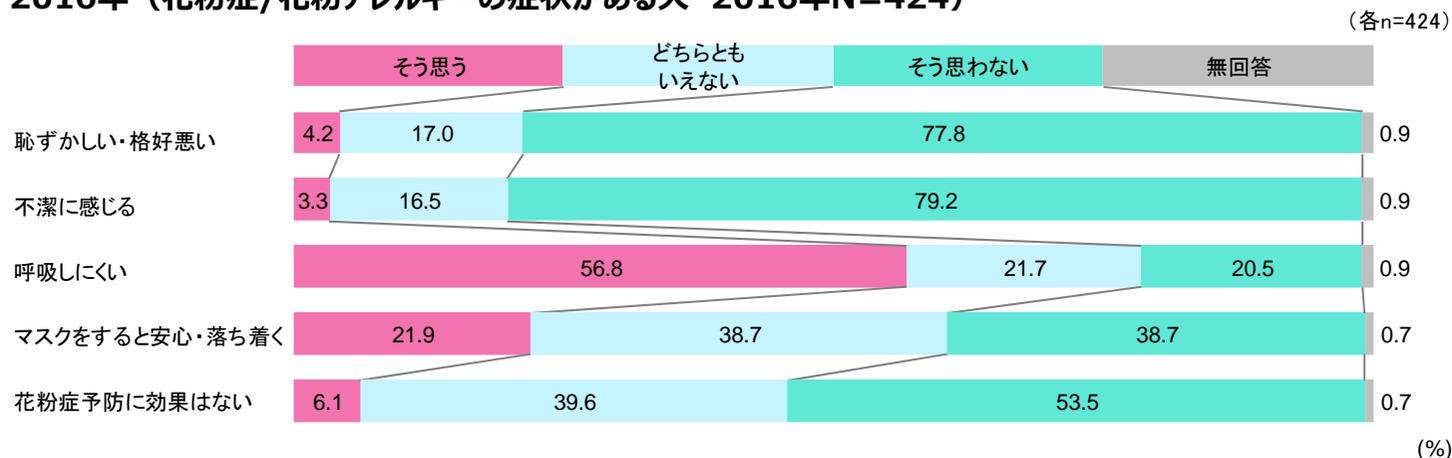
(注) 27.7 は2016年全体より5ポイント以上高い、4.5 は5ポイント以上低い

(%)

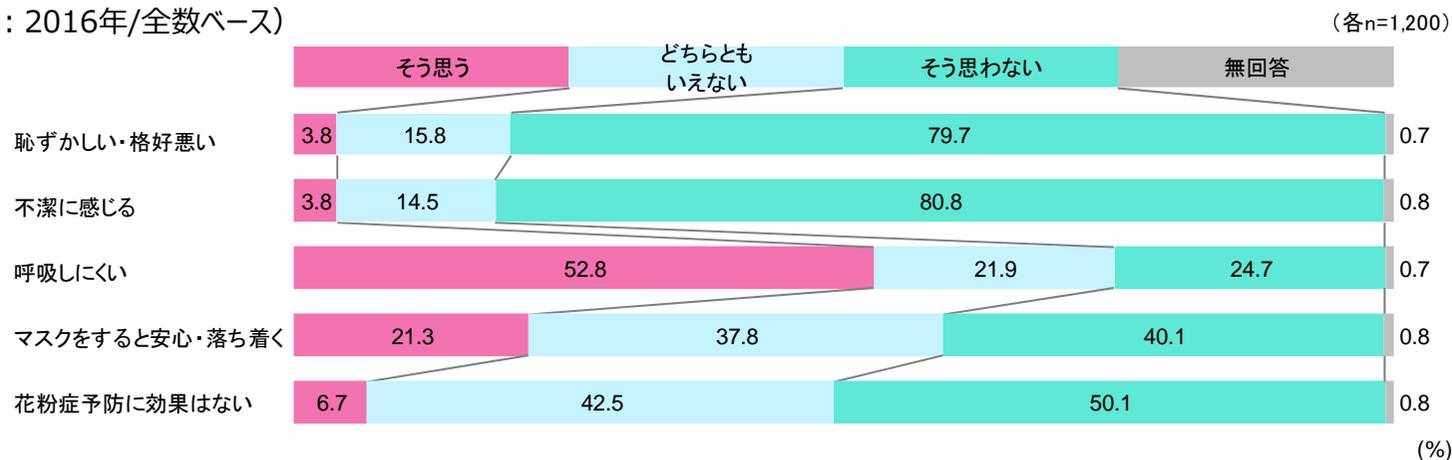
- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、マスクの装着で感じることを、以下の5項目に分けて質問した結果である。2016年全体の結果では、【恥ずかしい・格好悪い】と【不潔に感じる】というネガティブな意見に対しては、「そう思う」は3～4%と少なく、8割近くが「そう思わない」と否定している。
- ◆【呼吸しにくい】は、「そう思う」が57%で、「そう思わない」の21%を上回る。
- ◆【マスクをすると安心・落ち着く】は、「そう思わない」が39%で、「そう思う」の22%を上回る。
- ◆【花粉症予防に効果はない】は、「そう思わない」が54%で、「そう思う」の6%を上回るが、「どちらともいえない」が4割強ある。
- ◆花粉症/花粉アレルギーの症状がある人はマスクをする頻度が高いが、恥ずかしさや不潔感は否定するものの、花粉予防の効果について「そう思わない」と否定できる人は半数程度にとどまっている。

Q 「マスクを装着すること」について感じることを、「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の中からお知らせください。(各単数回答)

■ 全体 2016年（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人 2016年N=424）

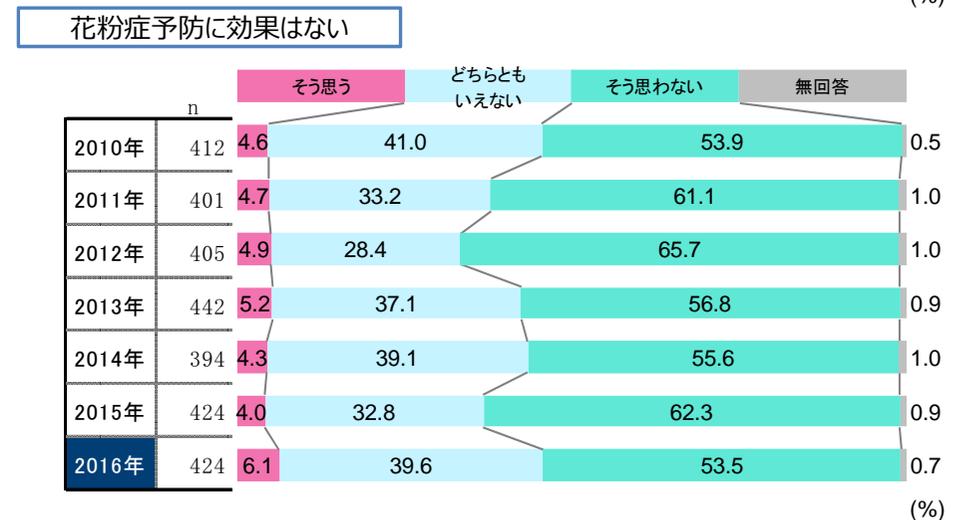
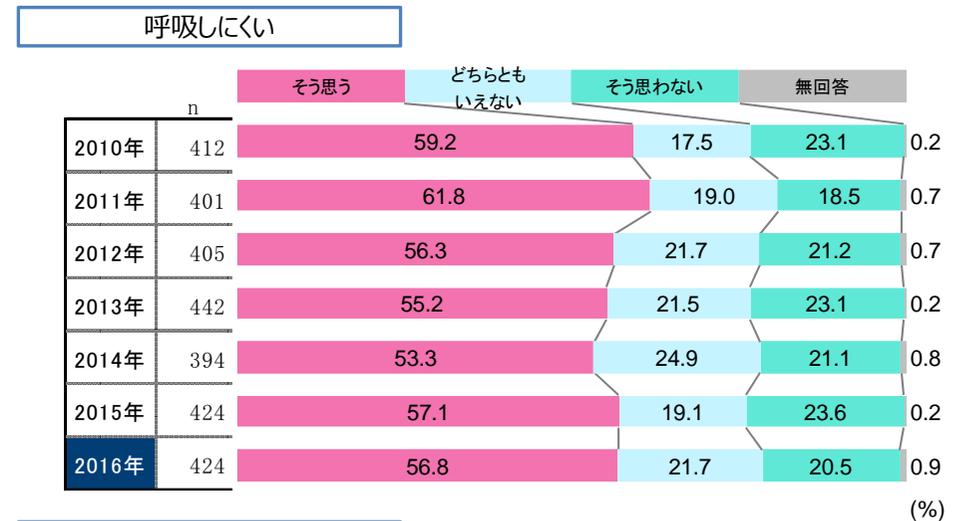


(参考：2016年/全数ベース)



- ◆時系列推移をみると、花粉症/花粉アレルギーの症状がある人で【恥ずかしい・格好悪い】を肯定する人は減少傾向がみられ、2010年では14%だったが、2016年では4%まで減少している。
- ◆その他の項目では、2010年から2016年で大きな変化は見られない。

■ 全体 時系列（花粉症/花粉アレルギーの症状がある人）



調査方法

- NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）
- 調査員による個別訪問留置調査

調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人 1,200人
※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付をおこなった

抽出方法

- 毎月200地点を抽出、住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当て

調査期間

- 2016/3/4～3/16（過去調査は2003年、2010年～2015年いずれも3月に実施）

NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは、40年以上にわたって、

①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼の高いデータを提供しております。

NOSは、毎月1回定期的に実施する乗り合い形式（オムニバス）の調査です。

毎回ランダムに決められた200地点にて、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では、回収が難しい60代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp

**掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。**